

学校だより

しらかわ



飯豊町立添川小学校

2021. 11. 10

いきいき なかよく ほこりを持って 第14号

緑の少年団活動が全国表彰を受ける

本校の「いいで緑の少年団」が「全国緑の少年団連盟会長賞」を受賞、11月5日（金）、その表彰式が本校で行われました。

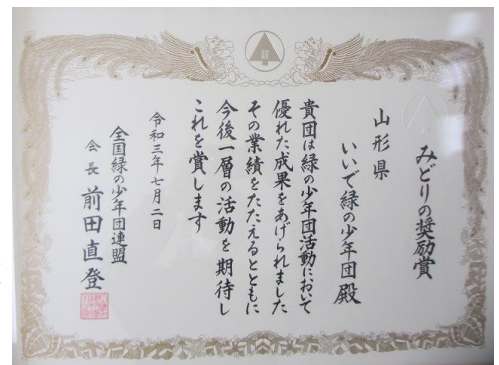
山形県森林と緑の推進機構の安達専務理事さんから児童代表に賞状を授与、お誉めの言葉をいただきました。

いいで緑の少年団の子ども達は、学校林活動、杉の苗木を育てる活動、ぼくの木わたしの木（実生活動、飯豊少年自然の家に植樹）、作物栽培活動等、一生懸命に取り組んできました。

タブレットを活用して杉苗の生長を記録したことも評価していただいたようです。子ども達の素晴らしい取り組みです。

なお、その杉苗は、8月28日（土）、白鷹町の「教育の森」で行われた「森の感謝祭」にカラマツとともに植樹されました。その苗は、今も元気に生長を続けています。

これまでご指導いただいた関係機関の皆様、地域の先生方に深く感謝申し上げつつ、これからも、緑を大切にする子ども達をいっそう育てていきたいと思えます。

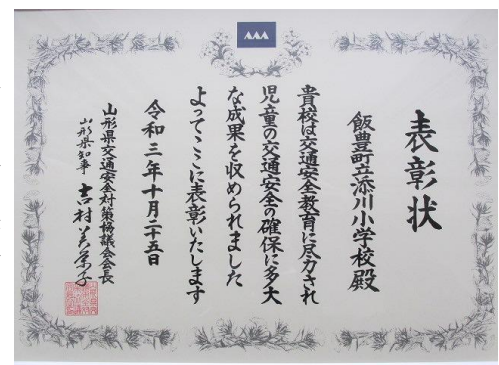


山形県交通安全対策協議会長表彰を受ける

10月25日（月）、山形市で「第60回山形県交通安全県民大会」があり、添川小学校は「山形県交通安全対策協議会長（県知事）表彰」をいただきました。

これは、本校、保護者、町、地域、PTA、交通安全協会、防犯協会、公民館、国交省、警察等が連携して取り組んできた成果を認めていただいたものです。全PTA会員での見守り活動、防犯パトロール等も評価していただきました。

改めて関係する皆様に深く感謝申し上げたいと思えます。



【おめでとう】

第72回山形県文集コンクール

最優秀賞

飯豊町立添川小学校 文集『いなほ』第52号

児童のみなさんが書き綴った文集『いなほ』、今年も最優秀賞をいただきました！

里芋を収穫して、地域の先生と「収穫祭」

10月29日（金）、今年も里芋を収穫しました。今回も密を避けて3回に分けて実施、ご指導いただいたのは高砂会の佐原会長さん、田辺さん、高橋さん。3人合わせて240歳、ますますお元気でいらっしゃいます。里芋は連作障害のため昨年度よりはやや少ないけれど、素晴らしい収穫でした。

11月2日（火）、お世話になっている地域の先生方をお迎えして、収穫祭を行いました。収穫した里芋等、材料を調べ、体育館わきで一斗缶を使って調理しました。手指消毒、座席やテーブルを消毒、会話を控える等の対策を取り、各教室に数人ずつ来賓の方々に入っただき、芋煮とおにぎりを食べ、感謝のメッセージをお伝えしました。地域の皆様あつての添川小学校です。ご案内できてよかったです、深く感じた一日でした。



地域の先生と里芋の収穫



体育館わきで煮炊き



各教室で感謝の会

<ミニコラム> 子どもの心とことばを育てるために（その22）

「お花きれいだね」

先日、ある親御さんの子育て体験発表をお聞きして、心打たれる思いがしました。

「時には、思い通りに気持ちが伝わらなくなって、疲れてイライラして息子にあたることもありました。すると、息子は、言葉のかわりに自分が初めて覚えてほめられた『チューリップ』の歌を、一生懸命聞かせようと歌うのです。私は涙が出そうになりました。『そんなに怒らないでよ。もっとぼくを優しい目で見てください。ぼく、がんばるから』という目で見つめるのです。そんな時、ふと我に返り反省させられ、息子と共に学ぶ中で、たくさんの方のアドバイスを教えられるような気がします。」

子どもから学んだというこの親御さんの姿勢には、頭が下がる思いがします。おそらく、子どものペースを大切にしたい、自分に心のゆとりがほしい、自分の価値観を見直したい、そんな「まなび」がたくさんあったのでしょう。

また、あるお母さんのお話です。

「私は花が好きなので、娘といっしょによく花を見ます。花の名前を教えるのも大切かもしれないけど、私は、『お花きれいだね』と言って、いっしょに花を見て感動するんです。娘が花を見て本当に感動しているかは自信ありませんが、しだいに親の感動や喜びは伝わっていくと思うんです。」

このお話を聞いて、大江健三郎氏の話を思い出します。

「私は父親と子供たちが同じ方向のベクトルを持ってほしいと思います。親が子供に向かうというのではなくて、子供が親に向かうというのでもなくて、親と子供が同じ方向を見ればいーだろーと思う。」（『家族のきずなの両義性』より）

おそらく、「子どもと共に成長する」という「かたち」も、きっと様々あるのだと思います。花を見る母と娘も、きっと同じ方向を見ている（いく）のでしょう。

私たちは、子どもとのかかわり合いを振り返り、子どもと共に成長する者であり続けたいと思います。

（山形県言語障がい児教育研究会『ことばの教育』第26号に私が書いた原稿から）